

Echrole

[エコール]

Vol.
64



特別対談

石倚潔先生(シ・イジェ) × 山崎明美先生

対談

音楽に関わる仕事で活躍する卒業生たち

・演奏会・イベントレポート

東邦ミュージック・フェスティバル2023
～祝・学園創立85周年記念～
東邦音楽大学 グランツァール





理事長・学長からのごあいさつ

学校法人 三室戸学園
理事長
東邦音楽大学大学院
東邦音楽大学
東邦音楽短期大学
学長

三室戸 東光
Mimurodo Harumitsu

卒業生の皆様には、お変わりなくお過ごしのことと存じます。

今年は1月1日から令和6年 能登半島地震による大きな被害を受けた方々がいらっしゃいますが、早い復興を願うばかりでございます。亡くなられた方々のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症も区分が5類になりましたが、まだまだ感染が続いておりますが、症状はだいぶ軽くなったようです。

学園の各学校では、学生生徒獲得に教職員一丸となり取り組んでまいりますが、是非、邦友会会員の皆様はじめ、広く卒業生の皆様のご支援、ご協力、お願い申し上げます。

さて、コロナ禍を経て、令和4年9月より在学生のウィーン海外研修実施に取り組み、令和6年3月末をもって、該当学年を超えた研修生は154名に達しました。

令和6年度からもさらに教育改革を推進し、抜本的な効率化を図ってまいります。

是非、さまざまな演奏会、イベントにお越しください。お待ちしております。

最後になりましたが、本学園へのご支援・ご指導・ご協力を心からお礼申し上げます。

特別対談

音と言葉に触発される イマジネーションを大事にしてほしい



中国・上海から単身来日して東邦音楽大学に通い、卒業後ヨーロッパに渡って、現在オペラ歌手として世界で活躍している石倚潔（シ・イジエ）氏は、東邦音大の特任教授を務めている。2023年7月4日にグランツァールにて公開講座を行った後に、石先生と、声楽主任・特任教授である山崎明美先生にお話をうかがった。

今日の公開講座で、石先生の指導によって学生の声の出し方が大きく変わったのが印象的でした。

石 学生はいつも同じ先生について勉強していますが、そうすると先生の言うことに慣れてしまうんですね。たまに別の視点から

アドバイスを受けることで大きな変化が得られ、一歩進むことができます。その後は再び自分の師匠のやり方にそって勉強していけばいいと思っています。個人的には、ずっと1人の先生について勉強するのはあまりお勧めではありません。たまには他の人の意見を聞くことも大切なのです。だから自分の学生にも「外に行つてレッスンを受けてきなさい」といつも言っています。

そういう意味で、石先生が特任教授として定期的に東邦にいらして、普段とは違う視点で生徒を指導することは重要ですね。

山崎 石先生の見方はとても素晴らしいですし、特任教授としてその視点からご指導いただくのは学生にとっても幸せなことです。しかも本学の卒業生であるということで、東邦の学生たちにも深い愛情を持っていらっしゃる。例えば、今日の公開講座で2人が《魔笛》を歌いましたが、石先生ご自身が、学生時代に同じグラン

ツァールの舞台で《魔笛》を歌っているわけです。そこから成長して、今は世界のひのき舞台に立っているということは、私にとっても感慨深いものがあります。

声楽家を目指す日本の学生に共通する問題点などを感じたことはありますか。

石 あるとすれば、発音でしょうか。日本語はイタリア語に似ているけれど、日本語はもう少し硬い。なまじ似ているせいで、イタリア語の発音のリズムやイントネーションがなかなかつかめない人が多く、どうしても癖がある感じに聴こえてしまうのです。





山崎明美

声楽専攻主任 特任教授

石倚潔(シ・イジェ)

特任教授

山崎 私もヨーロッパで勉強しましたが、実は母音が違うんですね。同じ「ア」のように思っても、同じではない。専門的な話になりますが、日本語の場合、硬口蓋、軟口蓋がかなり低いんです。舌もあまり動かさないので、子音も前まで舌を持つてこないで途中で発音しているわけです。自分自身留学から帰って教えるようになりましたが、発音に関してはすぐに理解できる人もいれば、なかなか違いがわからない人もいます。発音が発声そのものを左右してしまいますから、五感をフルに働かせないといけないのです。

ところで石先生はどうして中国から日本に渡り、東邦で学ぼうと考えたのですか。

石 最初は中国の音楽大学で学び、将来は音楽の先生になりたいと思っていました。もともと人前で表現することはあまり得意な方ではなく、ソリストよりむしろ合唱に入りたいと思っていました。みんな一緒に歌えば怖くないでしょう？(笑) でも希望していた大学に落ちてしまい、ちょうどその年に東邦が初めて中国で入学試験を行なうということをテレビのニュースで知り、学校説明会に参加して、試験を受けました。

今思えば大正解でしたね。中国ではテクニクばかりたくさん勉強していましたが、日本に来て音楽自体を考えられるようになりました。何より、環境が素晴らしい。大学の施設もよかったです。東京にいろいろな演奏会やオペラをたくさん見られます。私も大学時代には新国立劇場で様々なオペラを見ました。



それから、私は高校のとき英語の成績がよくなって、外国語を習得する能力が低いと思っていました。でも日本に来て、その後ヨーロッパに行つてわかったことは、「環境が大切」ということでした。実際にその言葉を使う環境の中で勉強することで、身に付けやすくなるのです。

山崎 入学試験のときは面接は通訳を通していました。合格してから入学するまで半年くらいあつたのですが、その間に日本語を勉強して、入学したときはかなり話せるようになっていたんですよ。

石 日本に来てからも、かなり勉強しました。今はだいぶ忘れてしまいましたが(笑)。

山崎 石先生は耳がすごくいいんですね。だからオーストリアに行つても、イタリアに行つても、言葉を覚えるのは早かったと思います。

卒業後にヨーロッパに渡ったんですね。

石 最初はウィーンでした。日本で4年間勉強して、ようやく環境に慣れたのに、またゼロからの出発でした。言葉も歌えはするけれど話すのはまた別ですからね。そしてイタリアに移つたら再びゼロからやり直します。でもそれは人生の大事な経験になりました。これらがなかったら今のようにならなかつたと思います。

イタリアに行つて初めてわかったこともありましたが、それは音楽の「色」のことです。先生には「そこはどんな色ですか」といつも言われていたのですが、よくわからなくて悩んでいました。ところが20007年と20008年にイタリアのペーザロで行なわれたロッシーニ・オペラフェスティヴァルに参加し、指揮者のアルベルト・ゼツタに付いて何か月か勉強しましたところ、「どの色で歌うのか」「どうやって音楽の色を作るのか」がわかるようになってきたんです。

色というのは目に見える色そのものではなく、強弱やクレッシェンド・デクレッシェンド、フェルマータ、リタルダンド、テヌート、アクセント、スタッカートが「音楽の色」となるのです。そしてこれらの色が、すべての言葉に付いているわけです。

私が学生たちにいつも言うのは、「聴いている人が言葉はわからなくても、歌うことで詩の内容が伝わるように」ということです。それがわれわれの追求するべきことなのです。

お二人に伺いますが、東邦で学ぶ学生には、どんなことを身に付けてほしいですか。

山崎 技術的なことを言えば、基礎をしっかり身に付けてほしいと思います。そして、音楽に関する様々なことに興味を持ってほしいですね。たくさん聴くということはもちろん、本を読むということでもあります。そうやって、イメージをふくらませてほしい。技術的にはあくまで基本に忠実に、しかし知識の部分はたくさんあればあるほどいいです。

また、若いうちから多くの言語に触れてほしいです。発音だけでもいいですし、簡単な文法も一緒に勉強できればなおいい。いろいろな言語の初歩だけでもいいので身に付けていただきたいと思います。もちろん基本的なものは大学でも教えています。



教員略歴(敬称略)

石倚潔(シ・イジエ) 特任教授

1982年中国上海生まれ。2006年東邦音楽大学を首席で卒業、同大学院特別研修生として選ばれ、オーストリアに留学。2009年東邦音楽大学大学院修了。声楽を山崎明美、ペーター・シュメルツァー、レジーナ・レズニック、アルベルト・ゼッツァ等の各氏に師事。これまでにフェルッチョ・タリアヴィーニ国際声楽コンクール、トティ・ダル・モンテ国際声楽コンクール、マリア・カニエリア国際声楽コンクール他数々の国際声楽コンクールで優勝。現在、中国湖南師範大学音楽学院教授・副院長、中国音楽学院特任教授、香港中文大学(深圳)音楽学院兼任教授、歌劇及び声楽学術主任、武漢音楽学院、西安音楽学院、瀋陽音楽学院等多数音楽学院客員教授、東邦音楽大学特任教授。

では、これから歌手を目指し、東邦に入ってくる高校生、中学生に一言お願いします。

石 音楽を勉強することはとても大変なことですよ。特に歌は、方法が間違っていると、どんなに練習しても逆方向に行ってしまう。

声楽というのはいろいろな要素を持つていて、しかもオペラになると「総合芸術」とも言われるほど、様々な芸術の集合体ですから、やりがいも大きいと思います。

石 まず大事なのは、自分の好きなように歌うのではなく、世界的に通用するセンスが必要ということです。もちろんそれは国によって少しずつ違っていますが、いろいろな本を読んだりしながら、発声に関するテクニックを学んでほしい。そして有名な歌手の歌を聴きながら、「この人はなぜ上手なのか」「この人はどういう方法で歌っているのか」「この人とこの人の違いは何か」と考えることが大事です。

100%正しい、完璧な歌手は存在しません。個人個人で何かしら癖があります。しかしその人が有名になれば、その「癖」が「特長」になるわけです。だから、自分の声を録音して同じように分析して、調整する必要があります。それには自分の体の中で何が起きているかを知ることが大切です。私が意識しているのは、体の中の筋肉のバランスを取ること。難しいことですが、これができるようになったら、とてもいい声が見つかります。

キャストとして務めたオペラ:

《コシ・ファン・トゥッテ》《後宮からの誘拐》
《魔笛》《ザイーデ》《チェネレントラ》《ランスへの旅》《オーリー伯爵》《セビリアの理髪師》
《アルジェのイタリア女》《オテロ》《タンクレディ》《イタリアのトルコ人》《アルミータ》《デメトリオとポリピオ》《ウィリアム・テル》《エジプトのモーゼ》《なりゆき泥棒》《愛の妙薬》
《ドン・パスクアーレ》《ルクレツィア・ボルジア》《ラ・ファヴォリータ》《ランメルモールのルチア》《清教徒》《ファルスタッフ》《リゴレット》
《椿姫》《真珠採り》《バラの騎士》《焼きもち焼きの夫》《ウリッセの帰還》《パリアッチ》
《ヴェニスに死す》《ボリス・ゴドゥノフ》《死の都》《シャルカ》《メリー・ウィドウ》《微笑みの国》《詠別》《紅樓夢》。更にイタリア、オーストリア、イギリス、デンマーク、日本、中国などでリサイタル開催。

うんです。一所懸命時間をかけても、成果が出てこない場合も多い。それは通る道筋が違うからです。だから勉強している途中で壁にぶつかったら、そこで止まるのではなく、よりよい道を探ることが大切です。

山崎 声楽の勉強の面白いところは、視点を変えてみることで気づくことがあり、目の前が開ける瞬間があるということなんです。一方で何をやっても上達しない時期もあったりします。ですから根気よく、忍耐力を持つて取り組んでほしいなと思います。

石 道を開きたかったら、歌うテクニックだけ勉強してもダメです。言葉やいろいろな文化など、音楽の周りにあるものを勉強しなければいけません。大学で歌を勉強した人も卒業して必ず歌手になるとは限りませんが、そういう勉強の結果があれば、道は開けるのです。歌だけを勉強していると、自分の道を狭めることになりかねません。

山崎 声楽は自分の体が楽器でありますし、唯一言葉を持つている音楽です。それを誇りに思い、音と言葉に触発されるイマジネーションを大事にしてほしいと思います。そういう感覚を育てるためにも、本当に幅広く勉強してほしいし、仲間とコミュニケーションを取りながら様々なものを吸収して、人間としても成長してほしい。石先生が中国から日本に来たように、人々との交流によって学べることもたくさんあるわけですから。

令和5年秋の叙勲 三室戸東光理事長が 『旭日中綬章』を受章

本学園の三室戸東光理事長が、令和5年秋の叙勲で「旭日中綬章」を受章いたしました。本受章は、三室戸理事長の長年にわたる私学振興の功績が称えられたものです。本学園にとりましても誠に嬉しいことであります。心から祝意を表する次第です。



理事長のことば

この度は、このような榮譽に浴し、身に余る光栄と存じます。本学園の創設者である父、故三室戸為光の後を昭和五十八年九月に引き継いで理事長に就任し、多くの方々の教えと導きに支えられ音楽教育の道に邁進してきました。今回の受章は、皆様方を始め先達からの永年に亘る心暖かい真にその実績が評価されたことと思います。今後も、学園の諸先輩、教員、職員、学生、父母保証人会、後援会、邦友会、関係者の皆さまに、そして家族の支えに感謝と祈りの気持ちを忘れず、若者の未来を拓くグローバルな視野で音楽教育の発展に努めていく所存でございます。

「第6回 学生が選ぶ キャリアデザインプログラム アワード2023」にて入賞



本学の科目のひとつであるインターンシップが、「第6回 学生が選ぶキャリアデザインプログラムアワード2023」にて入賞を果たしました。

本アワードは、学生の社会的・職業的自立に貢献したインターンシップやキャリア形成支援に係る取り組みを表彰する日本最大級のアワードで、第6回目となる今回は、全国より694法人770プログラムの応募があり、音楽大学のみならず芸術系大学では初入賞の快挙となりました。

本科目では、音楽ホール、音楽書籍出版、楽器店、総合研究所、福祉施設、市役所の6企業・団体において音楽の周辺領域の仕事等の経験を通して、音楽大学で得た「学び・経験」を「仕事・社会」とどのように繋げ、生かしていくかを考える機会を学生に提供しています。

実習後は参加学生全員が成果を発表し、「音楽の演奏・発表」とは異なる、プレゼンテーションスキルを育む機会や個人面談の実施を通して今後の学生生活での取り組みや卒業後のキャリアデザインを具体化する等、学びを深化させている点など随所に工夫の見えるプログラムとして評価されました。



日本音楽療学会認定音楽療法士
ドレミ株式会社所属
東邦音楽大学 音楽療法専攻 2023年卒業

木村 紗彩

Profile

宮城県出身。中学・高校時代は吹奏楽部に所属し、音楽の楽しさを学ぶ。音楽療法士に興味を持ち、東邦音楽大学音楽療法専攻に入学。大学卒業後、群馬県太田市にあるドレミ株式会社に入社。同社の事業所である放課後等デイサービス「びあの色」にて、障害のある児童の支援に携わり、音楽療法を実践。現在は音楽療法センタードレミにて、児童・成人・高齢者などの領域で音楽療法を実践している。日本音楽療学会認定音楽療法士。社会福祉主事任用資格。

活躍する卒業生たち

東邦音楽大学で音楽療法を専攻し、卒業後にその経験を生かして福祉の場で働く卒業生、鎌倉萌葉穂さんと木村紗彩さんに現在のお仕事や、学生時代の思い出などについてお話をうかがう。お二人の指導教員でもあった木下容子准教授にも同席していただいた。

Q 現在はどのようなお仕事をされているのですか。

木村 ドレミ株式会社という、群馬にある福祉の会社に勤めています。2月に人事異動があり、今はいろいろなところに出向いて音楽療法を行なう仕事をしています。対象の方は、障がいのあるお子さんであったり、町による介護予防の事業だったり、特別養護老人ホームだったりとかかなり幅広く、そういう現場が午前中に1つ、午後に2つと入るような毎日です。

鎌倉 私は主に千葉県にある株式会社ツキイのデイサービス事業所で、非常勤として生活相談員と介護職員をしています。音楽療法は、レクリエーションの時間に、月3〜4回の頻度でやらせていただいています。

Q 今の勤め先を選んだのはどんな理由からでしょうか。

木村 とにかく音楽療法の現場をたくさん経験したかったんで、その環境があるドレミに行きたいと思いました。

木下 彼女は学生時代からすごく勉強熱心で、子どもから高齢者までいろいろな対象にセッションをすることを求めています。それがドレミさんとフィットしたということですね。

木村 ですから、まさに今やっている仕事が一番やりたかったことなんです。とはいえ、1つのセッションのためには、どういう対象者がいるのかというアセスメントを行ない、それに従ってプログラムを考え、ピアノの練習もしなければなりませんので、準備にかなりの時間がかかります。セッションが終わった後も記録を書かなければなりませんので、いくら時間があっても足りないというのが現状です。

鎌倉 私の場合は高齢者領域をやりたいと思っていたの

で、それができる仕事先を選びました。もうひとつ、小学校の吹奏楽部や器楽部の外部講師を大学生の頃から行なっていたので、それも続けたいと思いました。「音楽で人の役に立ちたい」というのが私の一番の思いなので、やりたいことがたくさんあってもどれも捨てきれなかったんです。

木下 鎌倉さんは「地域還元」という思いが非常に強いんです。地元の小学生の指導もそのひとつだし、音楽療法に関してもまず地元の現場でやりたいと考えているんですね。

Q そもそも、どうして東邦で音楽療法を学びたいと思ったのでしょうか。

鎌倉 高校の吹奏楽部で、慰問演奏の際に職員の方にお話を聞いて、音楽療法というものを知りました。「人の役に立つ仕事がしたい」「それに音楽を使いたい」と考えていたのので、「私に合うのはこれだ！」と思いました。たまたま本学出身だった顧問の先生に相談して、まず見学に行くことになりました。二俣泉先生の授業を見学したのですが、「入っていいよ」と言われて授業に混ぜていただいたんです。そんなふうに受け入れてくださったアットホームな雰囲気がとても素敵でしたし、「先生と学生の距離が近い」と感じ、手厚く支援していただけたので本学を選びました。

木村 私は大学受験に当たって、漠然と福祉系というか、対人援助職に興味があり、公認心理士を目指して心理学を学ぶことも考えていました。私も吹奏楽部に入っていて、音楽が好きなのはもちろん、音楽を通していろいろな人と関わることが好きだったこともあり、音楽を続けたい気持ちもありました。調べていくうちに音楽療法を知り、資格を取るには認定校で勉強するのが早いということで、まず東邦音楽大学のオープンキャンパスに参加しました。そのときの雰囲気がとても暖かくて、説明してくださる先輩方や先生方も優しく、その場で相談に乗っていただいたりもしました。それで東邦に進むことを決めました。

Q 実際に東邦で学んでよかったと思ったのはどのような点でしたか。

鎌倉 1学年の人数が少ないこともあり、1人ひとりに時間をかけてじっくり教えてくださったおかげで、大きく



日本音楽療法学会認定音楽療法士
株式会社ツクイ デイサービス生活相談員兼介護職員、
小学校部活動講師(打楽器)
東邦音楽大学 音楽療法専攻 2022年卒業

対

鎌倉 萌菜穂

Profile

幼少期からピアノを習い、小学4年生から高校3年生まで部活動で打楽器を担当。習志野市立習志野高等学校卒業。東邦音楽大学音楽学部音楽学科音楽療法専攻卒業。併せて故三室戸貴光奨励賞受賞。
在学中から日本音楽療法学会学術大会等にて研究発表。卒業後、主に株式会社ツクイのデイサービスにて生活相談員兼介護職員として勤務。レクリエーションの時間に音楽療法を实践。また、船橋市内小学校の部活動講師(打楽器)、介護予防や音楽関係の地域事業等で活動中。日本音楽療法学会認定音楽療法士。社会福祉主事任用資格。認知症サポーター。認知症介護基礎研修修了。



音楽に関わる仕事で

成長できたと思います。

木村 先輩と一緒に実習に入らせていただいた現場で、先輩から学ぶことがすごく多かったです。どうしていいかわからないときには、とりあえず先輩の真似をしてみたりして。

鎌倉 木村さんは勉強熱心、練習熱心なので、「私も頑張らないといけない」と感じましたし、「こんなふうにリードしたら先輩のみんなもやりやすいかな」とか「自分も先輩方から教わったことを先輩に教えてあげたい」と考えながら実習に取り組みました。

木下 多いときは週3回とか、どんどん実習を入れていました。

鎌倉 毎日プログラムを考えて、練習して、記録を書いての連続でした。大変でしたが本当にいい経験でした。

木村 それが今やっていることにとても役立っていますし、「もつと学んでおけばよかった」とも思います。

鎌倉 座学で学んだ知識も今の仕事には非常に役立っています。利用者の方の状態をアセスメントする際に、病気のことや病状などを医療の授業や高齢者領域の授業で学んでいたおかげで、理解しやすいと感じています。大学生の頃は正直、「本当に医療の勉強が必要なのかな」と思ったこともありましたが(笑)、実際に仕事をしてその意味がわかりました。例えば同じ認知症の方に対しても、音楽療法で「こういう病状があるからこんなふうにアプローチしてみよう」とか、「こういう病状の人はこういうことが苦手だろうな」と考えられるわけです。

木村 現場ではピアノを主に使うのですが、伴奏の付け方が難しく、「あのとき先生はこうしていた」と思い出しながら練習することが多いです。メロディとコードネームから自分で伴奏を付けるので、同じ曲でも場合によって弾き方を変えますし、「この活動にはどんな伴奏が合うだろう」といまだに悩みますね。

木下 しかも大切なのは、弾きながら対象者の方を見ることが。弾くだけで精一杯ではいけなくて、事前に練習しておいたものをその場に合わせて出し引きする必要があるんです。でも4年生くらいになるとみんなやるようになりますよ。卒業する前に、1人で音楽療法ができるようになることを目的としていますので。

鎌倉 以前からピアノを習っていましたが、楽譜があるものしか弾いたことがありませんでしたし、コードネームも知

りませんでした。でも勉強してみると、いろいろなことを考えながら、自分でオリジナルの伴奏をつけられることが楽しく感じるようになりました。

木村 事前に「こんなふうに弾こう」と準備はしていくのですが、その場の流れで変えることも多いです。

木下 例えば人数が少ない場合「この和音だと重すぎる」と思っ音を間引いたり、逆に会場によっては大きめに弾いて音刺激がきちんと伝わるようにする。木村さんはそういうことを瞬時に聴き分けて、「音にどのくらいの刺激があれば心地よく、最適に伝わるか」と考えて実行していると思います。

木村 努力はしています(笑)。

Q 実習以外で大変だったことは?

木村 やはり、卒業論文ですね。

鎌倉 私も同じです。コロナ禍ということもあり、「実習形態の違いによって実習生の負担がどのくらい変わるか」というテーマで、対面とオンライン、ビデオレターなど様々な条件で比較・研究をしました。

Q では最後に、これからやってみたいことなどあればお願いします。

鎌倉 私が生活相談員をしている事業所が「音楽療法をするデイサービス」として定着してきたところなので、私自身音楽療法ができる環境を整えていくことや、皆さんにもっと理解してもらえるようにしていきたいと思っています。それから指導している小学校も今4校あるのですが、もう少し増やして、小学生に音楽の楽しさを伝えていきたいです。

木村 まずは自分が満足いく音楽療法ができるようにどんどんスキルアップしていきたいです。そして、いずれは音楽療法がもつと当たり前になって、私も地元の東北でできるようにになりたいなと思っています。

今日はどうもありがとうございました。



主な演奏会＆イベントの様子をご紹介します。

演奏会・イベントレポート



第12回北関東甲信越音楽系高等学校演奏会

2023年6月10日(土) 東邦音楽大学グランツァール

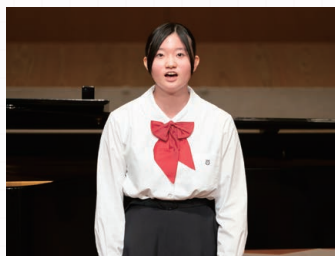


東邦第二高校主催の北関東甲信越の音楽科・音楽コース・芸術系高校の生徒による合同演奏会です。



第225回定期研究発表演奏会(ソロの部)

2023年7月15日(土) 東邦音楽大学グランツァール



東邦中学校・東邦高等学校クラシックコンサート 東京さくらトラム沿線の文化と景観を後世に残す～

2023年9月27日(水) 北とびあ つつじホール



ユネスコパートナーシップ世界遺産トーチランコンサート協会(NPO法人)。東邦中学・高等学校主催のコンサート。プロデューサーは、音楽家・ユネスコ平和芸術家の城之内ミサ先生です。



TOHO Saturday Concert Special

2023年9月30日(土) 学園創立50周年記念館ホール



地域の方々に向けた短大主催のコンサート。年間5回ほど開催しています。



東邦ミュージック・フェスティバル2023～祝・学園創立85周年記念～

2023年10月7日(土)・8日(日) 川越キャンパス



中高二高演奏会



華麗なるオペラの調べ～東邦声楽コンサート



二高ウインドオーケストラ



煌めき!!ピアノコンサート



高校生と大学生による打楽器アンサンブル



総合芸術研究所スペシャルピアノ・デュオ



弦楽室内楽～東邦の名手たち～



TOHOオールウインズ



短大2年次生卒業 記念修学演奏旅行

2023年10月25日(水)～27日(金)
沖縄県恩納村立仲泊小学校

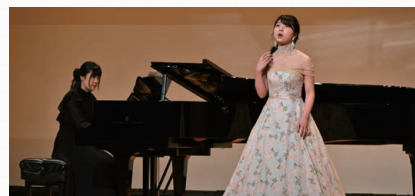
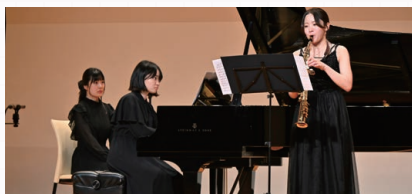


学生が企画・構成した演目を現地の小学生に披露。



～ハンガリーの歌・日本の歌～ 東邦音楽大学ハンガリー配信のための 公開演奏収録(大学4年次生)

2023年10月25日(水) 星野リゾート リゾナーレハケ岳「テアトロガストロノーム」



ハンガリーを訪れてのコンサートがコロナ禍において叶わず、収録した演奏をフィルムコンサートとして現地の方々にご覧いただきました。



第226回定期研究発表演奏会(合唱の部)

2023年11月18日(土) 東邦音楽大学グラントザール



第227回定期研究発表演奏会(ウインドオーケストラの部)

2023年11月23日(木・祝) 文京シビックホール 大ホール





第228回定期研究発表演奏会 (オーケストラの部)

2023年12月9日(土) ウェスタ川越 大ホール



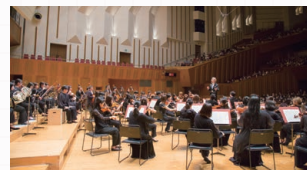
東邦音楽大学 大学院1年生演奏会

2023年12月2日(土)・3日(日) 東邦音楽大学グランツザール



第14回音楽大学オーケストラ・ フェスティバル2023

2023年12月17日(日) 東京芸術劇場コンサートホール



©2/Faith Company
大友直人先生指揮の下、ブラームス:交響曲第1番ハ短調 作品68を演奏しました。



TOHO CONCERT2024 東邦音楽大学ウインドオーケストラ & 陸上自衛隊東部方面音楽隊

2024年1月20日(土) 東邦音楽大学グランツザール



オペラ彩設立40年記念公演 オペラ「魔笛」

2024年1月20日(土)・21日(日) 和光市民文化センター サンアゼリア大ホール



佐藤泰弘先生



プロの方と共演できる貴重な機会



佐藤泰弘先生と二高の生徒たち、本学学生と卒業生も出演しました。



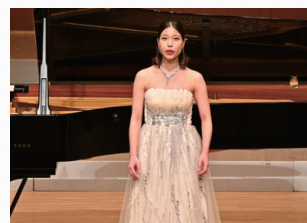
パフォーマンス総合芸術文化専攻 卒業制作発表

2024年2月23日(金・祝) 東邦音楽大学グランツザール



東邦音楽大学大学院修士課程 学位審査修了演奏会

2024年2月10日(土)・11日(日) 東邦音楽大学グランツザール



世界遺産トーチランコンサートへ 参加させていただきました。

2023年11月3日、フランス・パリ・マドレーヌ寺院で開催されたユネスコ平和芸術家・城之内ミサ世界遺産トーチランコンサート(国連機関ユネスコ・パリ本部公式パートナーシップ事業)『La sérénité – concert franco-japonais pour la paix〜平穏〜平和のための日仏コンサート』に合唱団として東邦中学校・高等学校合唱団有志が参加させていただきました。多くの方にお越しいただいた公演は、音楽監督・作編曲・指揮・ピアノを城之内ミサ先生がつとめ、演奏は城之内先生と長年の音楽仲間でもある国立パリ・オペラ座管弦楽団の奏者や、フランスを代表する国立オーケストラからのスペシャメンバーで編成され、ユネスコ・パリ本部のサポートのもと素晴らしい公演となりました。

また、11月27日、渋谷区文化総合センター大和田 さくらホールで開催された「ユネスコ無形文化遺産保護条約採択20周年記念 ユネスコ平和芸術家・城之内ミサ 世界遺産トーチランコンサート〜音を詠み、言霊を奏でるひととき」にも合唱として参加させて頂き、コンサート第二部には、奈良県委嘱作品平城遷都1300年祭楽曲「大和路シンフォニー悠久やまと」の第4章より「時空の翼」なども歌わせていただきました。城之内先生の音楽作品を通して国内外の素晴らしい奏者の方々と舞台に立たせていただき、貴重な経験をさせて頂きました。



フランス・パリ・マドレーヌ寺院にて



渋谷区文化総合センター大和田 さくらホールにて

令和5年度ベストティーチャー賞

2023年9月7日(木)、東邦音楽大学・短期大学教員を対象にした 令和5年度ベストティーチャー賞の授賞式を川越キャンパスにて挙行いたしました。この賞は、教員の教育面における評価の一環として、質の高いクラス授業を行っている教員に本賞を授与し、これを顕彰するとともに本学の教育の質の向上を高めることを目的とした制度です。令和5年度は、中島剛専任講師が受賞されました。



2023年度開催公開講座



2023年7月4日(火)

石倚潔(シ・イジェ)本学特任教授
声楽特別公開講座

2023年10月19日(木)

名倉誠人先生 公開講座



2023年11月29日(水)

下田幸二先生ピアノ公開講座



2023年12月8日(金)

A.ヴァルドマ先生
大学院ピアノ公開レッスン

お知らせ

本誌「Echolle」は段階的に本学Webサイトページへの掲載に移行してまいります。但し、東邦音楽大学・東邦音楽短期大学同窓会[邦友会]会員の皆様におかれましては、引き続きお届けいただいているご住所へお送りいたします。

次号[Echolle Vol.65]は、2025年春ごろ発行予定です。

●掲載されている教職員の役職は2023年度のものです。

訃報

東邦音楽大学 名誉教授
有山静枝先生(享年94歳)
令和5年12月20日(水)ご逝去

心からご冥福をお祈りするとともに
謹んでお悔やみ申し上げます。

演奏会・イベントのご案内

6/30(日)	第17回 東邦ピアノセミナー	文京キャンパス
7/13(土)	第229回 定期研究発表演奏会(ソロの部)	東邦音楽大学 グランツァール
7/14(日)	親子のためのピアノ・オープンキャンパス	川越キャンパス
8/3(土)	「夏」声楽セミナー ～グランツァールで音大生と共に歌おう～	川越キャンパス
8/25(日)	TOHOサマーコンサート	東邦音楽大学 グランツァール
9/14(土)	2音大クラシック・コンサート	ウェスタ川越 大ホール
10/5(土) 6(日)	東邦ミュージック・フェスティバル2024	川越キャンパス
10/11(金)	東邦中学校・東邦高等学校クラシックコンサート ～東京さくらトラム沿線の文化と景観を後世に残す～	北とびあ つつじホール
11/16(土)	第230回 定期研究発表演奏会(合唱の部)	東邦音楽大学 グランツァール
11/24(日)	第231回 定期研究発表演奏会(オーケストラの部)	文京シビックホール 大ホール
12/1(日)	第15回 音楽大学オーケストラ・フェスティバル2024	すみだトリフォニーホール 大ホール
12/14(土)	第232回 定期研究発表演奏会(ウインドオーケストラの部)	ウェスタ川越 大ホール
3/8(土)	東邦音楽大学・東邦音楽短期大学 卒業代表演奏会	東邦音楽大学 グランツァール

その他の演奏会、イベント情報および開場・開演時間など詳細は、本学ウェブサイトで随時ご案内いたします。

ご住所等の変更がございましたらお知らせください

本誌は、卒業生の皆様に卒業時にお届けいただいているご住所へお送りしておりますため、ご住所、お名前等、変更がございました場合は、当編集部へお知らせいただけますと幸いです。登録情報の変更は、学園ウェブサイトにてお手続きいただけます。郵便や電話にでも受け付けております。なお、ご本人様からの変更手続きのみ承ります。ご了承ください。

※ご連絡いただいた個人情報は厳重に管理し、本誌送付、そのほか学園からの案内等に使用させていただきます。

※近年「職業別名簿」の刊行という名目による個人情報収集の被害が本学園卒業生をはじめ全国で横行しておりますが、本学園では名簿作成や個人情報収集等を第三者（業者）に委託することは一切ございませんので、くれぐれもご注意ください。また、このような被害に関して、本学園および邦友会では責任を負いかねますことをご了承ください。

「エコール」編集部



学校法人 三室戸学園

<https://www.toho-music.ac.jp>

スマホ対応！東邦の
ウェブサイトはこちら



川越キャンパス

〒350-0015 埼玉県川越市今泉84 TEL.049-235-2157
東邦音楽大学・東邦音楽大学附属東邦第二高等学校・東邦音楽大学ミュージックセンター／東邦音楽大学グランツァール

文京キャンパス

〒112-0012 東京都文京区大塚4丁目46-9 TEL.03-3946-9667
東邦音楽大学・東邦音楽大学大学院・東邦音楽短期大学・東邦音楽大学附属東邦高等学校・東邦音楽大学附属東邦中学校
東邦音楽大学総合芸術研究所・東邦音楽大学エクステンションセンター・東邦音楽学校／創立50周年記念館

TOHOウィーンキャンパス

Wien, AUSTRIA 東邦ウィーンアカデミー